

講座名 (専門科目名)	社会医学講座 公衆衛生学	教授 氏名	川崎 良
学生への指導方針	医学と社会の接点にある学問領域である公衆衛生学では、個人レベルでの健康から地域・社会・国の集団レベルでの健康課題に対して、疫学研究の堅固な知見を蓄積すること、それにもとづいて社会にその成果を実装し、実証する研究に展開することを目指しています。現代の複雑化する疾病、健康課題に対して柔軟な姿勢で向き合い、それぞれの背景を生かして未来の健康を提案したいと願う熱意を持った方々を募集しています。		
学生に対する要望	社会医学分野の研究を目指す方々、大学院進学を考えている方々は奮ってご参加下さい。医学系・保健医療系・薬学系、また、データサイエンス、デジタルヘルス、ヘルスコミュニケーションなどでの大学院進学を考えている方々には、進路検討の一助となることを願っています。社会人入学制度がありますので、社会人の方々のご参加も歓迎致します。		
問合せ先	(Tel) 06-6879-3911 (Email) mkshimizu@pbhel.med.osaka-u.ac.jp	担当者	川崎 良
その他出願にあたっての注意事項等	事前に上記連絡先を通じて相談のアポイントメントをとっていただくようお願ひいたします。		

医学と社会の接点にある学問領域・公衆衛生学では健康課題に対して柔軟な姿勢で向き合い、それぞれの背景を生かして未来の健康を提案したいと願う熱意を持った学生を募集しています。

■ 複雑化する健康問題の「上流」にある成因に挑む

公衆衛生学の根幹とも言えるのが、疾病の成因の理解を深め、より上流からより多くの健康を実現する対策を提案することにあると考えます。このような壮大な目標を達成するためには、まだ疾病を発症していない集団を対象にしたコホート研究をはじめとした疫学研究の手法で堅固な知見を蓄積すること、それにもとづいてより疾病の成因の上流へ、そして、より多くの人に恩恵のある介入を目指す試みを検証するアプローチを繰り返すことが必要になります。公衆衛生学は現代の複雑化する疾病、健康課題に対して種々の手法を駆使して取り組んでいく、そのような学問領域です。

■ 個人、集団、環境の多層的な視点で健康問題に取り組む

公衆衛生学の醍醐味は病院という枠にとらわれず、個人レベルでの健康から地域・社会・国の集団レベルでの健康、さらには気候変動や環境を地球規模で俯瞰する環境レベルでの健康までを俯瞰する視点で課題に迫るところにあります。現在では高度化する医学と多様化する価値観、環境、文化、習慣などを背景に、従来の「病院での医療」と「地域・職域での健康づくり」という構図には収まらない柔軟なアプローチも求められているとかんじています。従来の公衆衛生活動で行き届かなかった集団に対してはデジタルヘルスといった新しいアプローチの提案なども必要になるかもしれません。個人レベルでの疾病リスク理解を精緻化する精密医療・精密予防とともに、地球規模での環境や文化に配慮した健康づくりの提案といった持続可能で多彩な健康のあり方を提案していく、公衆衛生学ではそのような人材を輩出したいと考えています。

■ 多様で学際的なチームで未来の健康づくりを提案する

公衆衛生学は、人間を社会や環境との関わりの中で捉えつつ、多様な健康課題に対して必ずしも原因や機序がわからない状況であっても対処してきた実践科学と言えます。大阪大学公衆衛生学教室にはそれぞれの時代の医療課題に対処し、公衆衛生を牽引してきた業績、人材のネットワークがあります。長寿が達成された我が国において、寿命と健康寿命のギャップ、少子化の加速、新興感染症、社会格差などの課題が立ちはだかっています。未来の健康を提案するために、多様なバックグラウンドを持った学際的な研究チームが必要です。公衆衛生学では、様々な立場から未来の健康を提案したいと願う熱意を持った人が集う場を提供したいと考えています。